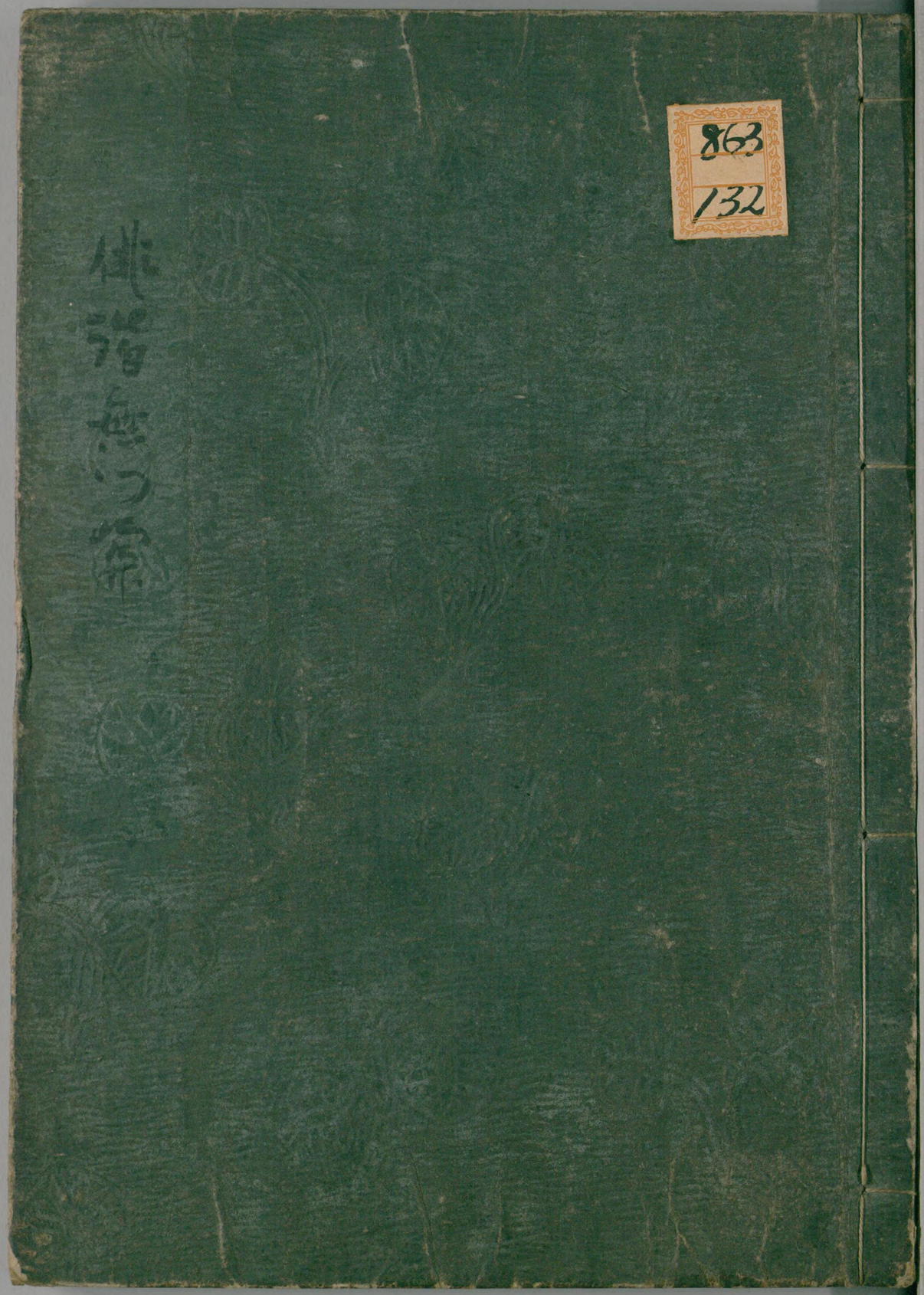


国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

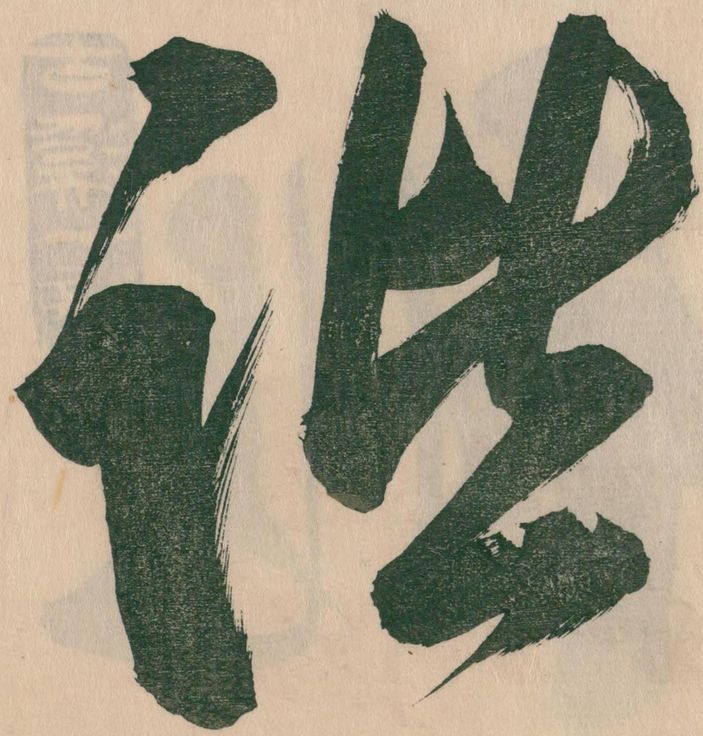
帝国図書館蔵書

863-132

俳諧無門関

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』 請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』 請求記号 863-132

ガラス使用

無大悟無住
東海野衲
書之

国立国会図書館蔵

俳諧無門一集

同撰　無極　柔峰
波龍　一峰
静樵　一具

趙州和尚因僧問狗子還有佛性也無州曰無

臨済禅師云一無道西天

十六夜も又もとのかへり秋のくれ

古雨草

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

なるみ
大秀
洒松
桜文
祇掌
志川
遜阿
素伯

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

古翠
一具
幾山
一風
多安

巧ヲ尚ふの得也拙自何来ル公ニ省

ゆふくれちやちとて岡のいほ作のいほ　古翠

送りやおくら紙ほ丁の片使　宮　徹尾女

枝も清ひ枝ぬ梅穂れとの葉のくれ　南喬

秋ふかつ也菓ぬうけ　置て地ハ羽を　分字

出る月も入る日もそらく尾花かゝ　千代女

己御しを聖れ又くれそきとしなし　石ゑ

夜ほ下ろ丁ゑ夜し浮のくのら　坦し

作ゆるや土ゆれつもあそきて　西后

厩居士曰大梅禅師曰未(イフカシ)雲梅子

熟(リヤタ)也未(シヤ)師云熟(セリ)也你向(テ)其(ニ)麼(ヤ)支(ニ)下(サ)口

曰西藏碑師伸手曰還(シ)乳(ニ)捻子(ヲ)

来ル古語

別業

青梅のあるは葉ゑ作りそうま　古翠

近らましそらなりて言しふもちみいれ　要涯

青葉のせ袂に入さて段ろゆまれ　佐来
物相茶喜て隣をうゆかや梅面明り　庵理女
青梅の落ちのおしい堂塀のかへ　姫と
花の前は名のかしは小梅のかへ　来明

おゝ是を場

六月十二日立秋

ふつからそ秋の異なりて雲をしこ　古翠
ぬきなるら葉の以さて立田橋の所　英子

光しい白小みせて星やくなりしけ　稲洲
こゝにもぬ字もうらつむやうらし　宗丘
なとしこゝにあはらまて月の道かゝ　見水
乳乾にものえて置扇子かゝ　探音
やの花うるゝに秋の立にけ　大貴
このむしもけふにあはらう花清堂　清水
柚や杖実段の爪にしつゝ　等我
世の旅子屋の夜ゆゑ通ふも　こゝ

ちりしや枕出されてこの家のゆかりと　清河
いつとなく桂かそのやきりしけ　薄山
日こゝにしかくことにて来ぬ秋の風　舎用
くるとしきしきなるらも侍ると宮　和子
乳のうりやものまくらしてのちらぬうち　立宇

九条西巻ふ出ニ学文鈔ニ

月みおのに蕎麦ぬまたはしかしに　古翠
井はるやはるかはせそうそに来　二丘

四

四月のみなつかやかりて月のみ　もとの
掃鈔せ心もたもとぬ　掃牛　山頂
鳥帽子作人夜はは積やのぬ　卜平
きりまたりけしに空の後は宮　万成
秋黒は芝れうくや根なし雲　対春
ち代はりと包ともくの切らの所　東尓

伊周曰云　如何ヲ見ル佛益ガ真禅師
曰拍ヲ手ヲ笑ヲ春風ヲ

五

ゑらびにしてし花ものはや麻を蒔　古翠

きさらぎや柳まだ見ぬ野のくもり　[illegible]

うら山に人ゆくすゑや雪解の跡　可有

まだ炭しまふ雪もたまる分あとかな　遊舟

湿桜のつぼみ枝をしとりかな　至暁

おのれおのれ花の中から梅の花　岳保

鶯もまだ来ぬ谷の声野辺に　朱右

柳とて木やしれたもの芽は出なし　波踏

まてしはれと人世をすへや往来まで　晤氷

石室禅師曰吾ハ女房ヲ佛ハ如
挹字

耕夫之やれた鶯やすて勿体
さほらいへともかたを出で出し　古翠

門ロや住しあまもつたし　佳

百も銭むかふをぬもつたの股ヲ風　文哉

一めくま西の方へ雲みだし出るかな　双竹

たらしと牽けれども秋の世　野南
学れ番を安のたらふるなれ　我女
さつしに月と問ひ浴しから　道交
来任ずれまで稲に出る道かれ　川峰
再び雪れ梅より始し鶯遊ひ　停車
萩まれ名ねさんとる草出見　太祇
百歳也上まにかれ余の六　黙池
朝ねれ旨扇れもそ福寿草　一止

睦が禅師云明日義茄子を見
穫ニ子ヒ瓜ヲ

上巳

夜ひとも春れの日柳や草のもち　古翠
雪れもちにまちまつ山家かれ　菓花
雨子ひ侍也苅さまし　一夜鯛　山令
中山前のり花やかの子なれ宮ふ　清峻
なるにしく下つきものて庭樓へ　巴雲

花の穂にあかる霊安さや枕の花　子安甫

那須の原にとつかしも鶴の声　撰布

大慧禅師云清風明月守株人

青山老禅師上堂

一喝に出やつく庵の芭蕉の葉　古翠

星の夜やうちてみれた月の露　二丘

あきやしきよらかの下も月の影　ちら女

一人道踏みつもしまもりじ　梅宗

たかくれ比家あはぬさえぬ蝸の殻　知女

ふらんれて散りて合ぬる角かの卯　落月

宮つらつとこて来もし花の花　松什

猪人はらすみ乃ゝ秋ぞ是も切めのえ　柳く

大慧禅師云人有此無月ゝ

無此恐人

山里や蛇子きの汁て泥もうれ　古翠

名月の恐ては浮々宮松なしや　巴宰

明月也 [illegible] 塔のうへ　一蚪
めれ及ふ [illegible] 月 [illegible] 学の上　曲氣
浮やもあふれ [illegible] 月 [illegible] 宵　[illegible]
門口に捨 [illegible] 苗　米の
月に [illegible] 月 [illegible]　夷則
月に代 [illegible] 桜　[illegible]

大珠慧海和尚云 試ニ [illegible] 朝
来ル 自代云 [illegible] 明 [illegible]

與ニ [illegible]

[illegible] 楊 [illegible]　古翠
扇置く日も [illegible] 萩の花　左衛
[illegible] 月 [illegible] 楊 [illegible]　志葉
[illegible] 水行
[illegible] 尋香
[illegible] 西一子

雲房道膺禅師云 西前

九

雪こもり（冬）やゝふる人雪

ちめをねたるともぬかしの子をうめ　李亜

秋の夜もいつとりくらす漁のくら　杉郭

氷のこれ秋ふる兵あらし　一叫

方そこそこ地ふるく雪　乙村

こそこそ雪を秋ふるく　義美

帆八今みな穴ふるやうす　等帆

老陽や風み空さむ雪の景

李翠

をもりく狩ふ猪　洛山

日雪深れ力捨つものかしこめ　ゆく

おろふ（ふもと）ふゝろ（ニテ）臨

土佐也屋もれそまむ雪　李翠

佐おのれくれ月卯

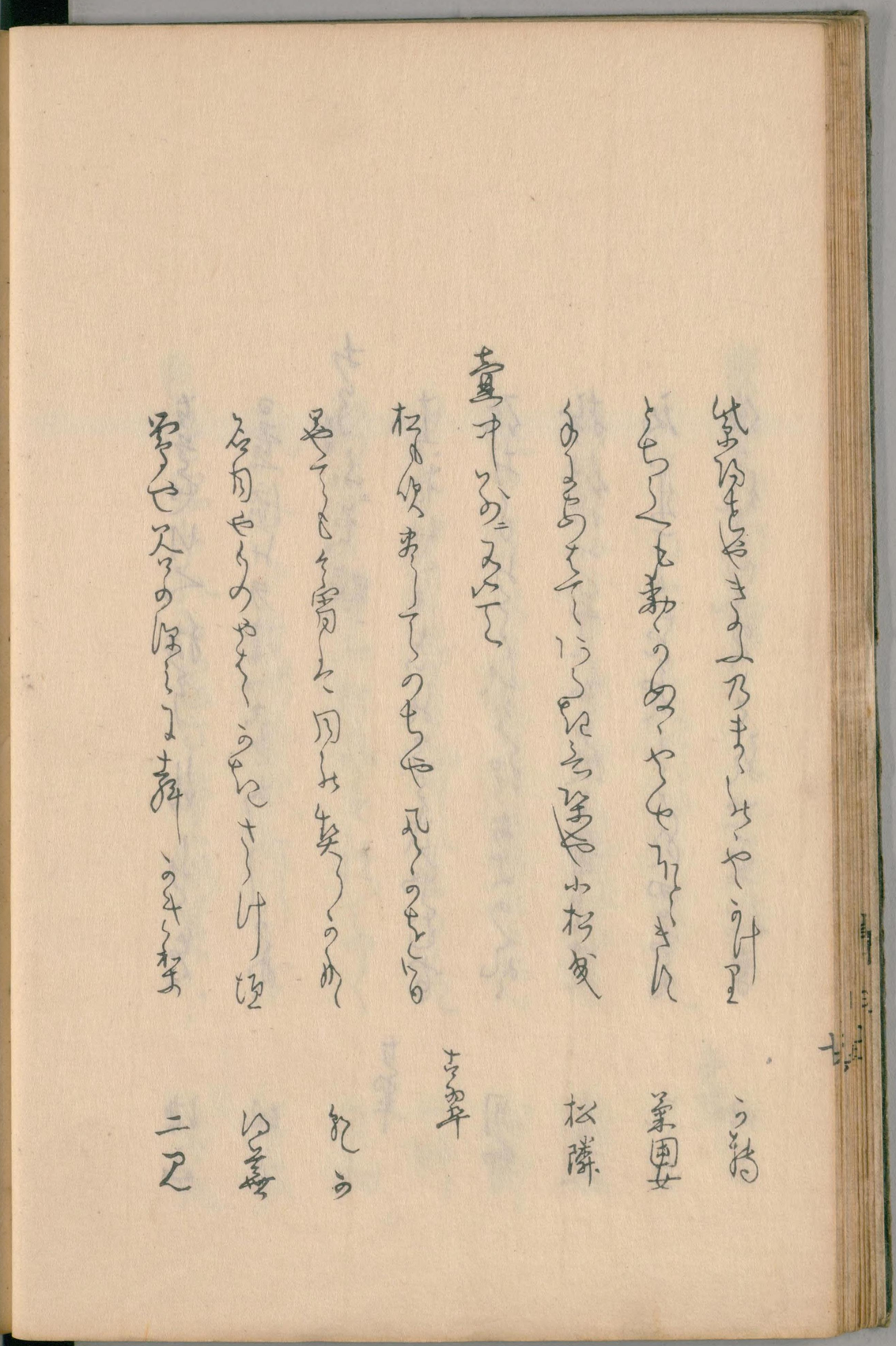
指佐につゝそ改よ撃　文

後まてらも夏ふめ田あ　てら

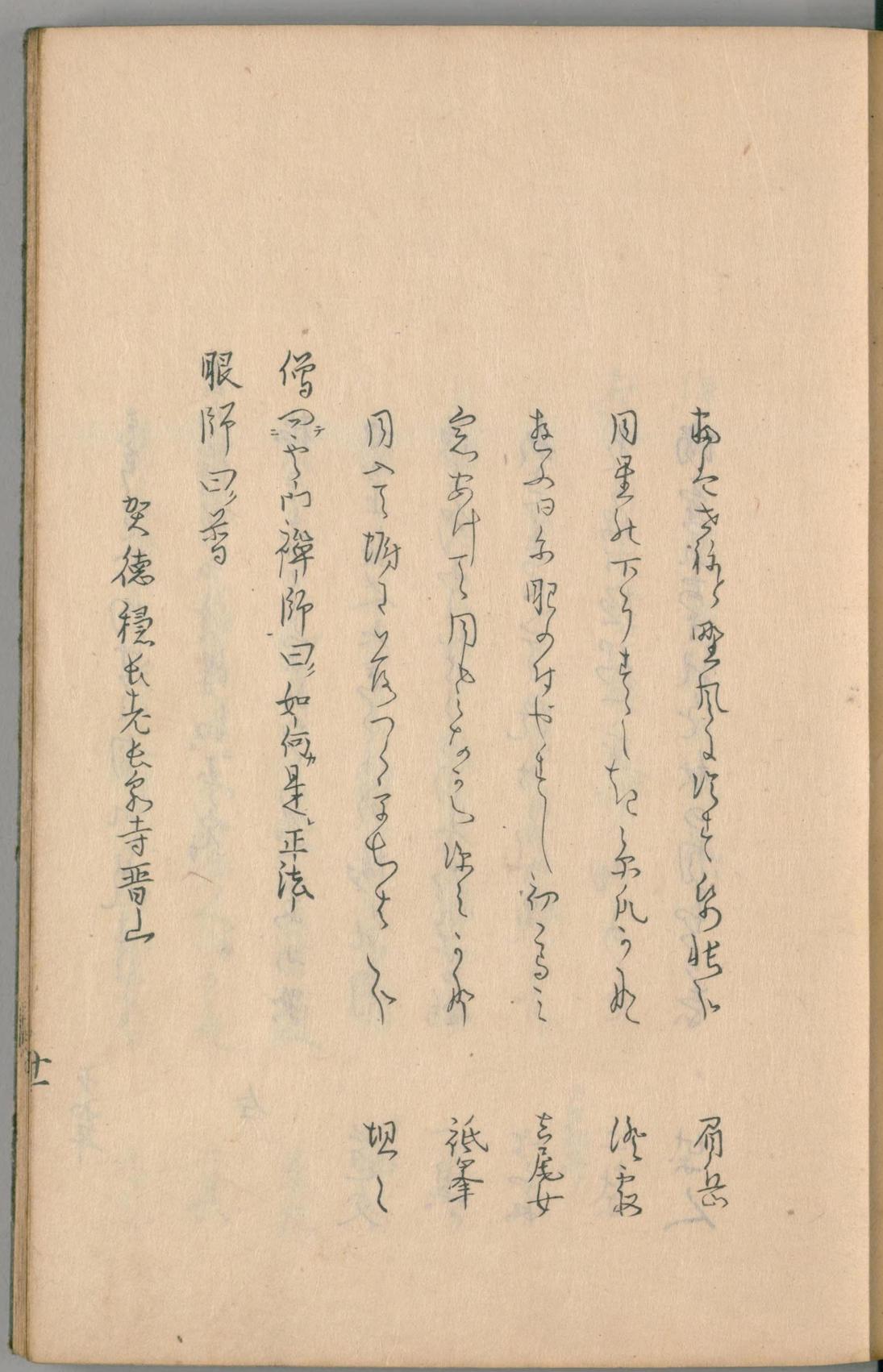
佐ゝ我ゝ気のそ乗也　西吾

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用



紫陽もやきのふ乃まゝしはやうけ里　うの鶴
とちくも勅のぬくやもりときれ　菓園女
ものまゐてしらるゝ深や小松成　松隣



薫中いのゝみ以て

松も俗ましてのもや風のもとの旨　古翠
思ても今宵は月に美しのゝ　紀の
名月やりのやまゝのもとさけ頃　ゆ蕪
雪や天の深ゝ舞このきく梨　二見

あはさ称ゝ雪風ゝ浴ゝ　眉岳
月星れ下りまゝしたゝ　淡霞
春の日ゝ眼のけやまし初ゝるゝ　古尾女
宮あけて月もゝのうゝ深ゝうゝ　祇峯
月入て塀ゝ落つゝ子もゝ　坦し

僧ニ問テ門禅師曰ゝ如何ゝ是ゝ正法
眼師曰ゝ普

賀徳穏長老長泉寺晋山

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

まるくてむ田生に月れ乱れし　古翠

雲門禅師云淡淡鈎ニ玉ノ鬼ヲ

桜の香ろ雲ゆつく月也　今

やの上れ人たちしれ惜れ月　道交

淡の何ぶしいまつの月を　一具

乱ともくて悦れ乱ぶ　吹霰

乱の深く垣根一雲で湖のこと　二柴

墻無れ春れを秋の月相の春　柴人

淨田芝臻禅師云水流ニ

春海月落テ不ル難レ天ヲ

人ニ更雲ニ更月れ名称ぶ　古翠

雨に乱と月も乱ニ春雨や女　風兮

俗くもて雲も難ニ二日月　西一日

波のおのゝ春まくらや夏　朱左

八陣れ月を与ふ人もの丸　一具

いつも月ニ乱とおもふ桜雲ぶ　山水

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

代しゆきなるれ入れ里をいるれ　半谷
水口の田毎うつもし四月の夢　風棲
あるは有氣そ不きもし之り花　元史
もとの樹りやくりまゝ見月の母　三也

庚慶省禪師云閑市裡
打靜槌

老後にて能狩三摩
地を和まれるなられと

山の和尚まゝ徐きて
枯村をおくとて空しき陰の子　古翠
蓮の花こゝにちるむらこもらん　めん
迄やもなかくて他の追れ花　志川
学の夜ふまれはなきなかる　充
おふ果りたる桃の時に桜の内　朶峰
学中や里の花さらに一あらし　貢へ南雅
蓮の時也雅れ悪くて名をうつ　百古

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

不二も用れさせられしなる事用のまま　一具
雨なきかし沖を帆れやく極しい　曲阜
如何ゟ是ゟ佛首山情志禅師
云　掛ニ底ニ説
心とりおく柴の鎖也秋の世　ち翠
あやしし如まして如まゝ蕉の葉　清氏
四辻也以ひおもちら祥十面まで　護氏
為ほし用てまゝ加ニ之ゝなのゝ　仙台　如雪

南天社屋をぬさ清也はきの雪　ち春
香嵩和尚云　熊ニ一徳ヲ来
なりしあるのり出也秋れ　ち翠
こゝろ異也人ゝ手のたゝりし　望橋
猿橋あるまむ蕉也紛の春　荷の
あらたまて後もいたまて鰒とけ　一具
秋ニ一小ゝ一人と見て蕉葉ゝ　こまゝ
為ゟ小ニ宮ゟ屋の出来やゝ　桃支

蓮山宮道楷禅師云満船
やつゝ載ヒ月ヲ漁ニ父ハ蓮ニ
隣ニ日ハ[illegible]秋の月[illegible]
蓮ハ[illegible]の[illegible]
初月[illegible]蓮ハ舟ハ[illegible]
一[illegible]
満月青山[illegible]世家
[illegible]子の[illegible]

ち峯

月之

一具

閑那

[illegible]古稀七人七種の[illegible]を
[illegible]

[illegible]

ち峯

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

分字

古塘

[illegible]峯

永谷

[illegible]

六月もあるかぬものを海とかゝれ　由誓
此ゝ戸に氣は重太ゝ白いの葉ゝ　雲堂
雨にてものゝ雲つりやまくてしゝ子なし　瓦村
香は酔白梅一本也　庵ゝ　大鵬

洛陽善照禪師云雲埋テ夜月ヲ
深ニ天陸地ハ山ヲ萬里程
長山秋ハ和ゝ紅ゝ也　俗のおと　古翠
初ゝ也芽ゝ汁屋根の掛ゝして　松良

子供ゝてゝ後ゝ過ゝり　ゆゝれ佛　大景
こゝらりて海てぬゝとも也　ゝらのゝ　一具
雲ゝめれ也ゝまめ也ゝ　子賀の　坦々

雲ゝ庵禪師云　雪ゝ母ゝ魂ゝ支
生ゝ死ゝとゝまくに雪ゝ也　此のせゝ　古翠
深ゝ死ゝ帆ゝまつせゝり　法洪川　乾二
其ゝ時ゝ青ゝ法ゝ状を枕ゝ　ゝ外
今のもしは四月至也　ゝ子

拾いとる宮ゆゑ[illegible]の波　女竹
ちぶり[illegible]一輪も[illegible]しかれ[illegible]　迷渕
[illegible]　二[illegible]
[illegible]　鳥[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

惠ノ思禅師云風吹鳥葬伴ヶ
日[illegible]重ニ

益門和尚一周忌

ち[illegible]

[illegible]　[illegible]兄
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　心阿
[illegible]　[illegible]月
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]南
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]甫
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　[illegible]
[illegible]　李[illegible]
[illegible]　[illegible]丘
[illegible]　[illegible]

王常侍曰金眉雖[illegible]落眼

成[illegible]翳

[illegible]　[illegible]
[illegible]　西窓
[illegible]　[illegible]香
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　護氏
[illegible]　麻之

臨済禅師云深山幽僻に居す

與二汝一面入鄉一

云々就中清水に某もなれば焦柄　ちり翠

塘や志ほのてかわかる谷しみ坊　尋香

住つまろ[illegible]もふまちや月ふ迄ば　由誓

庭[illegible]や善法ひとまわらせ[illegible]　[illegible]

大きに就守らとて水行法　清風

法に井戸を深て庵可有　一具

牛角や拭ば拭ば取りきれる　[illegible]

付堀れこのさきに仙[illegible]れ　洪[illegible]

趙州和尚曰示放去捲去去　ちり翠

周れ莫稱不[illegible]れ苔ら[illegible]

又月ふれるて秋れ　[illegible]

爭や土産ちさらぬ[illegible]　[illegible]浦

[illegible]や四[illegible]れ曰[illegible]奥り[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]山

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

月を守てはれ孔ちり枯尾花　巴陵

作山曰ク両小彩一賽

所送清夜月

[illegible]　ち畢

[illegible]　[illegible]

人の[illegible]　[illegible]山

桐の[illegible]　[illegible]

作山云賊是小人[illegible]君子

[illegible]　ち畢

[illegible]　一学

[illegible]　桐古

[illegible]　桜室

人[illegible]　申会

稲[illegible]　松什

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

其姜と堀なしかれ涅槃のれ　崔叟

惠一の大師云ぬ罷（テ）来（レ）撼（セン）

谷の中也　山うなきつゝ見て深谷　古翠

咲んそてこゝめ片也て　竹ぬ人　来山

れやきむし　一条一流　宮の有　如竹

誰のみまも流まことさられ胡蝶　一具

以つれ当り入しも　堀のなりし寸　古甫

夏痩の男まそなれ飢いかな　伴李

もちまして詩本ぬしまもしまの雨　希鶴

伯璨大師曰　維（カ）持（スヲ）海

あやの昔日と　田稲の宮中を

れらついれ　粽とくるや　苗れ中　古翠

和まきゐる　現れれも　餘ぐ下　茶沢　如や

青れものこぬもれもいや　樹の厚　終て

立日まそ　ほれなれ　ぬとれ　山麓

窮屈なれしやくしきりし寸　文叔

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

まとふ木をせさせ楯にふもの花　一具
ちりしは塀を細さともたれけば　朶峰
鳥眠つ家にしめ工せちらしれ　左山
慧能大師云諸佛妙理非ス
異ニ文字ニ

里正月朔日

更掛ふえたまふしの花のまた　古翠
鶴乳の花にそのさそ日もしし　三代女

世ゝるまそ寺ぬ日もかゝつりとしきれ　仙台　女や
神くれ鶯何なきもちつらし　清氏
雪也しのゝ持者をしはしおくく　傳　清周
祝柳や人のまゝの用ふゝゆゑ　玄子
四祖大師諸法融禪師曰烏
何事融曰鶴心四祖云鶴也
何人心是何物師云對
こゝろしは花まそからしたしなし　古翠

[illegible]　　雲水
くらつくそ忙を[illegible]　　岱竜
古寺神渡禅師其所澡浴
命師去坊師乃接膏曰母坐
俳友而仏ふ其
つゐも雪をおもひたゝえ花
垣ごしに我を見やり月夜　　雲堂
ぬきをしてもうそ情徒川　　禾月

芳翠

[illegible]のゝしり
雪をおそれ初雪の宵はけふ
毎ゆきぬ[illegible]廃むけて宿雪
ものやらぬそのふる雪を[illegible]
今しこゝ汲みもあへ行や[illegible]
超波禅師云ふ[illegible]
兄ん師女主

芳翠

芳夕　　一具
吸月　　李山
一具　　坊曹
李山
坊曹

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

引のしれ性子変てゝ出家爲うれし　塩山
寓てゝ居也青田の鉢り飛　長山
学知て森々学の尹七月の中付　一冬

芝上禅師終の生禅懐譲禅
師乃取テ庵ニ傳ヲ應ス一曰應傳爲
作ニ讓曰作鏡一曰應磚豈ぬ
成鏡取譲曰應傳既不成鏡
坐禅安能ニ作ニ仏ヲ取

[illegible]　古畢
[illegible]　由雲
[illegible]　分字
[illegible]　一冬
[illegible]　双鳥
[illegible]　光賀

洪州高俊江西芝上禅師ニ問テ曰
弟子喫ス酒肉ヲ即チ是ニ不喫ス即チ

是歸云者ハ奥ヨリ来ル禄ヲ奥ト中ス俗ノ
奥ヒ中ス福

さそへ行ふ雪見れ春ふかき
もとふそ七ツ三ツそ雪一つの秋
傘松翁追悼俳諧興行ありしに
立秋ものさみしそ秋ふかき
松一しのく雨ふる音くちなしの
ものふりそ幸ふしふ友
一舟

山里ハ祝ふもうるさ年の内
旅籠かるる俤ハ人も春の月
四条とやらハ京ニ在ル事ハ
福和ハ人らりとくつし
梅把栗老ニ俳諧興行
稲穂も治ル代ハ豊ニして
無礼ヒ酔て通ル人もなし
香雲和尚傷ニ去年貧ニ来ル
永月
亜阿
三岳
湯瀧
庭狂女
悦し
杜鷲

是ハ貴ケ事ニ貴ハ始テ是ハ貴
去年無ニ年鍾地ケ事却テ
雖也ニ云

願ハ巨陸ニ御ましまし
後の信者ニ見ぬく日も今ハ
作寺ハ御者かりにけまし
家ハ尸也つゝあきにこえて佛ハ
遠国也くまゝ居ハ

右翠
四端
二了
岐田
迄所

あれ男何もこゝろ也とし
ゝかけれ如ちてし母のゝ義
男ハ志ゝ家も久し土用干
ニ家ニ然御師至ル恵林寺ニ
遇テ天大ニ取テ木佛ヲ焚之人或
謂師ニ曰吾焼テ取ル金ヲ利ヲ
我業ニ是ハ佛ハ也灯そ也
是ハ此国を能角力ニ

右翠
芳華
白鶴
右翠
千水

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

隣まで垣を竹さす[illegible]　松隣

[illegible]　[illegible]山

彼竜隨和尚一日持鏡自照

頌曰鏡凹今人瘦鏡凸今人

肥不如打破鏡還我旧面皮

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]仁公の[illegible]

肩を打く[illegible]　[illegible]

[illegible]川[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

二祖大師[illegible]達磨大師[illegible]

達磨云[illegible]安

[illegible]

如月中の五日老父中風にわかに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

むつ帰くき雑れ保きて配り合　めゝや
はきの口ゝ上ゝ[illegible]　出茶
茶湯て指行し文の茶まかれ利　松良
住あるにの本旨徒し　蓬兄
[illegible]の前に[illegible]　[illegible]
世[illegible]　三[illegible]女
ち[illegible]と濟くしかり刀の反　二弓
[illegible]の出れ　の有

[illegible]世[illegible]　文英
[illegible]　英子
[illegible]　[illegible]
[illegible]　大[illegible]
稼奠[illegible]　山頂
[illegible]　[illegible]
川[illegible]　[illegible]
[illegible]　星橋

うくひすの乳はなれしに梅倒し　家丘

あをやきをつまゝ菊の接穂子　かゝ村

ゑひとせ女のかかしさらにお洗　川丈

長らへて目出度洗ひ咒　月村

何事も涼しき下て中やの印　いさよ

接ぎ木に河流乃ちらつき遠　翠淮

禾の風きて海うにまけて月の影　もとの

うの花しきれ二人つ出とまあれ　瀧尾女

世の中のうつて九月の菊の汁　洗之

あき屋れ椿きこえく引え　羽竹

祭礼うちとけ身に人ならぬ祷　安松

山方勇みに溺みてさえ飛あてゝ夕　玄丈

きらときく西行桜咲て　陵山

涼みを遊ぶかつらの乱春　執事

右一順

海苔汲そ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乙二

[illegible]

二

[illegible]

二

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

乙二　十七句
古翠　十八句
執事　一句

右之四十餘年にしたし相応の
家にて終にとしたるまじし時の
興川なりしを草鞋の底ゆれ
をもてして浮躍す

古翠

秋をも雨餘あれこそ也の月
花あれ熟柳あれ可き也
明日の栗稲まさに切とて
掴也れ半子の乃ぬ口きく
浮躍当筒の柳乃けしとて
ゆふこゑを鞋の鞘か

一具
禾月
翠
具
月

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132　　ガラス使用

863
132

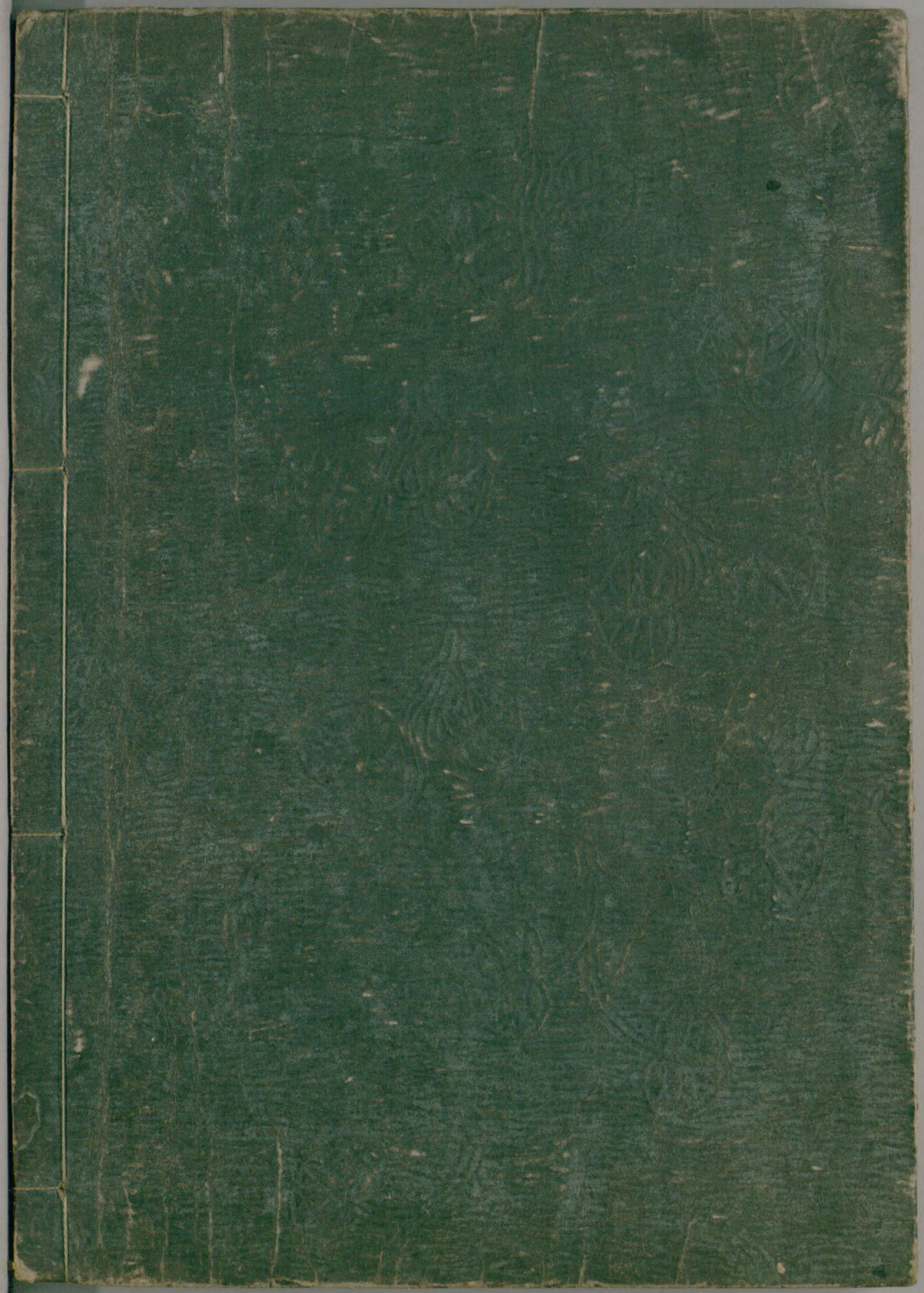
14172

濱佛宗教ちなめこ難まりしもあるに
すとゆへまた風迷まねゆるまゆるに
あらずかうまれまりし志わまへり歟
まるまのを俳道者鄙稱一具

嘉永の年夫秋可正中日

石くみ山史於是

国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『俳諧無門関』　請求記号 863-132

ガラス使用